

科目区分：国語教育専修・国際理解教育コース，日本古典文学概説
担当教員：小助川元太

日本古典文学史を学ぶ

担当教員：小助川元太

1. 授業の概観

日本古典文学概説は、学校教員養成課程国語教育専修の必修科目であり、また、中学校教諭教員免許状および高等学校教諭教員免許状の必修科目である。また、総合人間形成課程国際理解教育コースでは、日本アジア理解分野の選択科目でもある。一口に日本古典文学といっても、それぞれの時代によって特徴が異なる。本講義では、上代・中古・中世・近世の大きな時代区分の中で、それぞれの時代の文学の特徴を概説し、それぞれを代表する韻文や散文を取り上げて講読した。

国語の新しい学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されることになったが、このような流れの中で、『竹取物語』『枕草子』『平家物語』（祇園精舎）『徒然草』なども、授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生や海外の人と関わる仕事につく学生たちには、日本古典文学の本当の面白さを知ると同時に、正しい知識を身につけてほしいと考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

日本古典文学史の概略を把握したうえで、代表的な作品を読解し、その特徴を理解する。

【授業の目標】

1. 日本古典文学史の大きな流れを理解することができる。
2. 辞書を用いながら、古典文学を読むことができる。
3. 代表的な作品の特徴を説明することができる。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 日本古典文学史についての解説
毎時間、PowerPoint を使用し、適宜テキスト（『21 新国語総合ガイド』）や補助プリントを参照しながら解説する。

2. 作品講読

毎回配布するプリントに掲載されている本文の一部を口語訳させる。

【授業内容】

今年度は概ね下記のシラバスどおりに授業を行うことができた。

第1回：ガイダンス

日本古典文学史の時代区分、大きな流れ、授業の進め方など

第2回：上代の文学1

概説および記紀

第3回：上代の文学2

万葉集

第4回：中古の文学1

概説および和歌と漢詩文

第5回：中古の文学2

古今和歌集仮名序

第6回：中古の文学3

歌物語と作り物語

第7回：中古の文学4

日記文学

第8回：中古の文学5

枕草子

第9回：中古の文学6

源氏物語

第10回：中世の文学1

歴史物語

第11回：中世の文学2

方丈記・徒然草

第12回：中世の文学3

軍記物語・平家物語

第13回：中世の文学4

軍記物語・太平記

第14回：近世の文学

出版・仮名草子・奥の細道

第15回：試験および解説

【成績評価】

試験（40%）、授業に取り組む姿勢（30%）、毎回のコメントシート（30%）により、総合的に評価した。

2. 授業評価法

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。(27名) 質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
ア 真面目に取り組んだと思う。(9名)
イ ときどき集中していなかったときもあった。(16名)
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。(2名)
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
ア 理解しやすかった。(16名)
イ ふつうだった。(9名)
ウ 難しかった。(2名)
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
 - ・『大和物語』などの、男女の話。
 - ・古典文学が現代にも影響を与えていたところ。
 - ・印刷術など。
 - ・歌の歴史
 - ・なぜその作家が認められたのか、どうしてその作品が生まれたのか、作品と作品がどういう関係なのか学ぶことができた。
 - ・万葉仮名が今のかなとは違った使われ方で、読みとして漢字を使っていたのには興味を持ちました。
 - ・平安時代の文学
 - ・『古事記』に興味を持っていたので、授業で詳しく学べて楽しかったです。
 - ・軍記物語が政治に影響を与えていたということ。(7名)
 - ・俳諧の展開。
 - ・文学の転換期。
 - ・清少納言について。(3名)
 - ・実際に当時の本や絵本を見れたこと。
 - ・日本の歴史と文学を結びつけて考えるこ

とができることを学ぶことができた点。

- ・仮名文学の普及
 - ・『方丈記』和漢混淆文。
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？(以下抜粋)
 - ・具体的に分かっていなかった、「温故知新」を古典から感じることができた。
 - ・当時の人々の胸に抱いている思いを直接本人に言うのではなく、文字で表したり、和歌にして表すところが現代とは違って面白いなと思った。
 - ・自分が今まで興味を持っていない分野だったから。
 - ・源平交替史観について。実際に政権を担うにあたって利用されていた例や当時の武士の食欲さから。
 - ・平家物語には多くの諸本があり、後の時代にも大きな影響を与えているため、その一連の流れに興味を持った。
 - ・清少納言の返しのうまさに感服した。自分ならどう返すだろう、清少納言はどう返すのだろうとドキドキした。
 - ・中古や中世の文学については聞く機会が多くあったが、近世(特に俳諧等)について聞くことはあまりなかったので新鮮だった。
 - ・日本語の和の表現と漢文訓読調の表現の文章を読むおもしろさ。
 - ・古典作品の内容がわかるおもしろさ。

5. 意見・要望・感想・メッセージ(略)

5. 時間外学習について

授業で学習したことを家で復習するのが当たり前と考えていたため、具体的な指示はしていなかったが、次年度は検討したい。

6. まとめ

アンケート1の項目については、授業の進め方をもう少し工夫する必要がある。また、2の項目については、昨年度の反省を踏まえて授業改善をした結果、昨年度以上の高評価が得られた。3と4について、文学史を14, 5時間で網羅するのは難しいが、テーマ設定をしたのが効果的であった。特に今年度は連歌から俳諧への流れについて説明することができたのが良かったようだ。来年度もより良い授業を目指したい。時間外学習については、moodleの利用や参考文献を学生に読ませるといった指導も必要であると感じた。